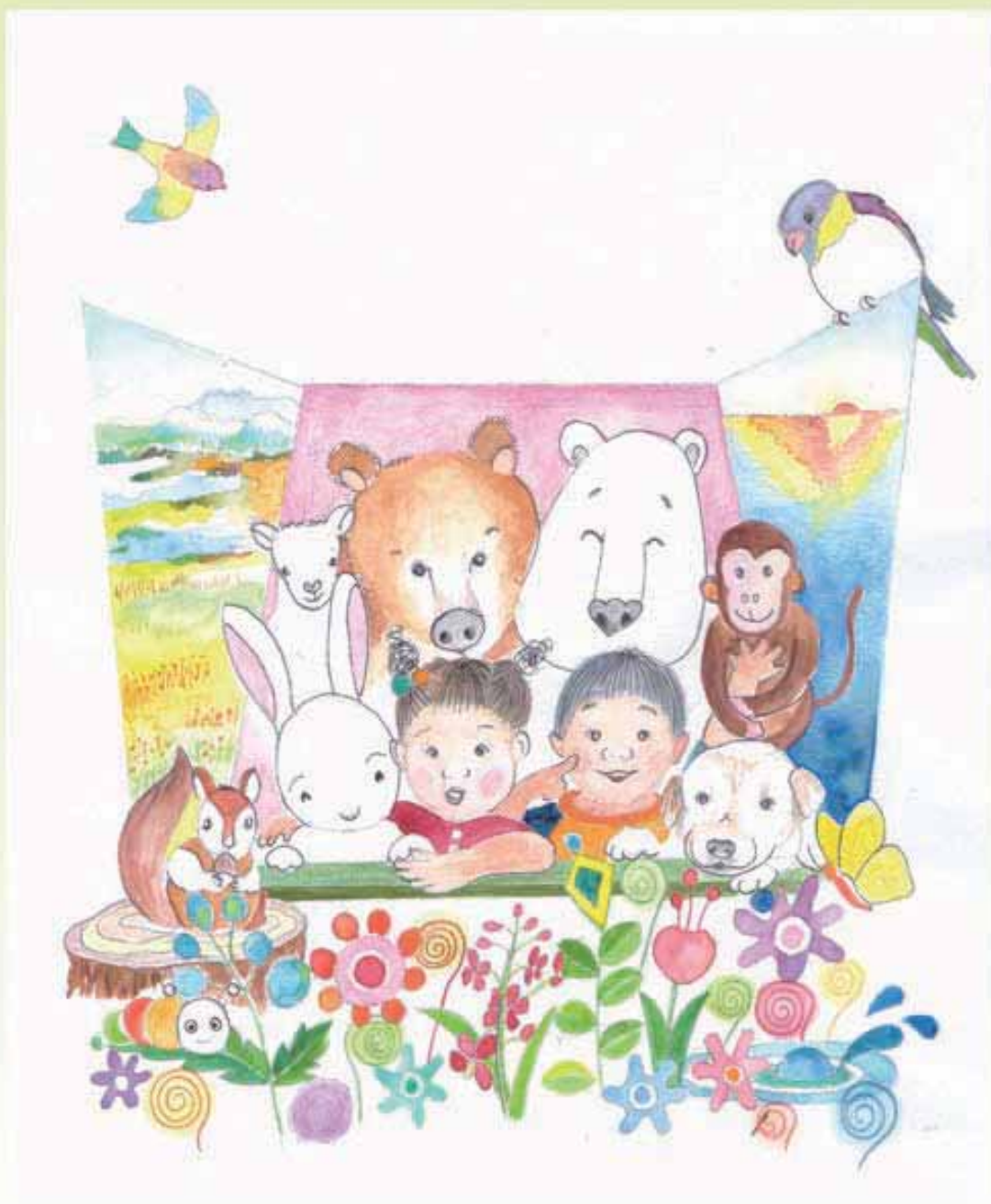


ほほえみ 活用の手引き



■ 目 次 ■

幼稚園用教育資料『ほほえみ』の改訂にあたって
 幼稚園用教育資料『ほほえみ』及び活用の手引きの編集について
 幼稚園用教育資料『ほほえみ』の活用にあたって

No.	資 料 名	分 類		ページ
1	あいさつをしよう	1-(1)	自ら学ぶ力の育成	5
		2-(2)	差別解消への態度の形成	
		3-(2)	思いやりの心の育成	
2	たいせつないのち	1-(2)	人権意識の高揚	10
		2-(1)	自己についての肯定的な認識の形成	
3	生きもののせいかつ	2-(1)	人権意識の高揚	13
4	どんな気持ち	3-(1)	自立向上の精神の育成	16
		3-(2)	思いやりの心の育成	
5	あそびの中で	3-(1)	自立向上の精神の育成	19
		3-(2)	思いやりの心の育成	
6	みんなといっしょに	2-(2)	差別解消への態度の形成	26
		3-(2)	思いやりの心の育成	
①	みんな生きている	2-(1)	人権意識の高揚	30
②	イチゴ	2-(1)	人権意識の高揚	32
③	もうすぐ春が…	2-(1)	人権意識の高揚	34
④	思っていること、教えて…	2-(2)	差別解消への態度の形成	36
⑤	おいしいね。	2-(2)	差別解消への態度の形成	38
⑥	ねえ、ねえ、聞いて	2-(2)	差別解消への態度の形成	40
⑦	うんとこしょ！ (みんなでいも堀り)	3-(1)	自立向上の精神の育成	42
⑧	のぼれたよ	3-(1)	自立向上の精神の育成	44
⑨	いっしょに つくろう	3-(1)	自立向上の精神の育成	46
⑩	ようちえん	3-(2)	思いやりの心の育成	48
⑪	ふれあいひろば	3-(2)	思いやりの心の育成	50
⑫	わたし あなた みんな	3-(2)	思いやりの心の育成	52

幼稚園用教育資料『ほほえみ』の改訂にあたって

平成 23(2011)年 3 月 11 日、三陸海岸沖を震源地としてマグニチュード 9.0 の地震が発生し、東北地方から関東地方にかけて太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらされました。特に、地震による大津波は、多くの尊い生命を奪いました。更に、大震災に伴う原発事故による放射線被曝へのいわれのない偏見や風評の問題など、人権にかかわる新たな課題が生じています。

震災以外にも、人権にかかわる社会の状況の変化に伴い、児童虐待やDV、いじめ、インターネットによる人権侵害など、子どもたちの生命を脅かす様々な課題が山積しています。改めて、生命尊重の大切さを痛感するとともに、人権教育の重要性が今問われています。

兵庫県教育委員会においては、平成 10 (1998) 年 3 月に「人権教育基本方針」を策定し、人権という普遍的文化を築くことを目標に人権教育を推進してきました。そして、この方針に基づき、平成 13 (2001) 年 3 月に幼稚園用教育資料『ほほえみ』を作成するとともに、各園において効果的に活用し、自己実現と共生をめざす人権教育の充実を図ってきたところです。幼稚園用教育資料『ほほえみ』については、幼児の発達段階や特性を踏まえ、人権尊重の精神や自尊感情をはぐくみ、人権教育の基礎を培う内容で構成されており、作成当時としては、非常に斬新な人権教育資料であり、その理念は今なお十分に耐えうるものです。

しかし、作成から 10 年が経過し、この間、国においては教育基本法の改正や幼稚園教育要領の改訂、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」の公表などがありました。また、県においては、「人権教育及び啓発に関する総合推進指針」や「外国人児童生徒にかかわる教育指針」などが策定されました。

このような国や県の動向を踏まえ、幼稚園用教育資料『ほほえみ』をより使いやすく、いっそう学習効果が期待できる内容にしていくため、本年度改訂を行いました。改訂にあたっては、幼稚園生活を通して生きる力の基礎を育成し、義務教育及びその後の教育の基礎を培うという観点から編集を行いました。

就学前における人権教育は、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態を踏まえて、創意工夫しながら計画的・組織的に実践するものです。特に、自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期において、人権感覚を育成していくことは、大変重要であると認識しています。その意味でも、本資料が、各園における人権教育の充実に活用されることを期待しています。

なお、本書の編集にあたり、ご尽力いただきました人権教育資料検討委員会並びに人権教育資料作成委員会の委員の皆様方に対し、心からお礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

兵庫県教育委員会

幼稚園用教育資料『ほほえみ』及び活用の手引きの編集について

I 改訂について

平成13年3月に作成した幼稚園用教育資料『ほほえみ』及び活用の手引きの改訂にあたっては、以下のように基本方針、視点、内容を設定し、すすめました。

1 改訂の基本方針

- (1) 「教育基本法」(平成18年12月改訂)に掲げられた教育の理念を踏まえ、「幼稚園教育要領」(平成20年3月改訂)の趣旨に即した内容としています。
- (2) 「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」(平成20年3月)の趣旨に即し、人権を取り巻く今日的な課題に対応できる内容としています。
- (3) 「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」(平成13年3月)を踏まえ、「人権教育基本方針」(平成10年3月)に基づき、「ひょうご教育創造プラン」(平成21年6月)に即した兵庫らしい特色ある内容としています。

2 改訂の視点

「人権教育基本方針」では、人権教育の推進にあたり、留意すべき点として、

学校教育においては、「生きる力」を育むという観点から、人権教育を児童生徒の発達段階に応じて、あらゆる教育活動に位置づけるとともに、開かれた学校づくりへの展望に立って、家庭・地域社会などと連携して推進する。

と述べています。

「幼稚園教育要領」では、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を育成するために、5つのねらいが挙げられています。

- 1 健康
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
- 2 人間関係
他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。
- 3 環境
周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
- 4 言葉
経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
- 5 表現
感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

そこで、これまでの幼稚園用教育資料『ほほえみ』の編集方針を引き継ぎ、「人権教育基本方針」に基づき、「幼稚園教育要領」に示されている生きる力の基礎を育成することをねらいとし、幼児が環境にかかわりながら展開できる具体的な活動を通して総合的に指導する視点から改訂しています。

Ⅱ 編集について

1 編集方針

これまでの幼稚園用教育資料『ほほえみ』の編集方針を引き継ぎ、「人権教育基本方針」に基づき、幼稚園教育要領に示された各領域のねらいと内容に即して編集しています。

2 内容

本資料の「人権教育基本方針」の内容における位置づけについては、目次の分類欄のようにまとめられます。幼稚園教育の特性から、複数の重点目標がある資料があります。

幼児の発達段階に即し、幼児の主体的な活動を促すとともに、教育の自発的な活動である遊びを通して人権尊重の精神の芽生えを培う内容としています。

現在幼稚園で実践されている教育内容を、人権教育の視点で捉え、効果的な指導ができる内容としています。

- (1) 幼児と友だちや家族、地域とがかかわるコミュニケーションツールであるあいさつに取り組み、日常生活に汎化させる。
- (2) 自分が大切にされている存在であることに気づくとともに、身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 身近な動植物に親しみをもって接し、命の尊さに気づく。
- (4) 自分の思いを相手に伝えたり、友だちの思いを察したりすることができるようにする。
- (5) 自分の身の回りで起きている事象に気づき、自分たちの力で問題解決を図る。
- (6) 高齢者をはじめ地域の人々など、自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

3 構成

(1) 教育資料（右綴じ）

次の教育資料をA4版（カラー）で集録しています。

- ア 「あいさつカード」（5種類）
- イ 「たいせつないのちのカード」（2種類）
- ウ 「友だちカード」（16表情）
- エ 「せいかつパネル」（6種類）
- オ 「みんなといっしょにパズル」

(2) 活用の手引き（左綴じ）

- ア 指導例編：指導者用として、各教育資料ごとに指導例を掲載しています。
- イ 資料編：「すてきなことば」（楽譜）、「ツバメの親子」（お話と写真）

4 その他

兵庫県教育委員会事務局人権教育課ホームページに教育資料等を掲載していますので、ダウンロードして利用してください。

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~jinken-bo/index.html>

幼稚園用教育資料『ほほえみ』の活用にあたって

1 幼児の主体的な活動を促す指導

「幼稚園教育要領」には、幼稚園教育の基本の一つとして、

幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること。

が述べられています。

幼児は、その発達や生活経験に個人差はありますが、5歳ごろには、物事の是非を、大人が言うからではなく、自分で考えて自分で判断できる基礎が形成されると言われています。

本資料の活用にあたっては、これからの幼稚園教育の方向性や、幼児の発達過程を踏まえ、幼児が主体的にかかわり、自己を十分に発揮し、自由に表現活動することを促す指導が重要です。

2 適切な機会をとらえて

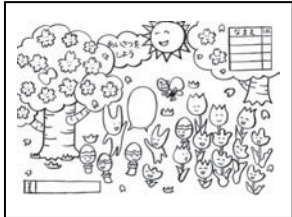

本資料は、人権教育の基盤である生命尊重や豊かな人間関係づくりにつながることや、人権感覚を育成すること、多文化共生をはじめとする様々な人権に関わる課題解決の導入教材となることを意図して作成しています。

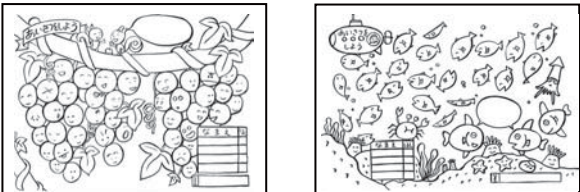
指導例には、それぞれの教育資料のねらいとともに、資料の活用方法を説明しています。指導者は、幼児や家庭、地域の実態に即して、また、幼稚園行事や教育活動を視野に入れ、学級全体の活動で、時にはグループ活動で、適切な機会をとらえて活用を図ることが大切です。指導例は、幼稚園での検証結果に基づいて作成していますが、幼児とともに楽しい時間を共有するように創意工夫する必要があります。

また、本資料は家庭や地域に持ち帰ることができるよう、データ配布をしています。幼児対象だけでなく、保護者や地域の人たちを対象に活用することもできますので、地域ぐるみで人権教育の推進を図ることも考えることができます。

○ 指導例について

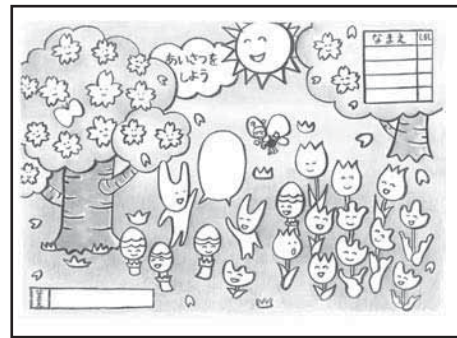
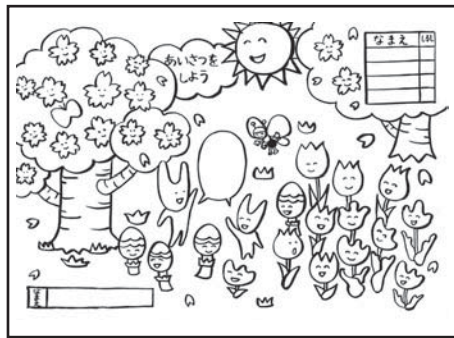
<分類>	「人権教育基本方針」の内容項目による分類を示しています。
<資料名>	教育資料名を示しています。
<資料について>	教育資料の形態や教育資料の作成のねらいを記しています。
<ねらい>	教育資料における目標を記しています。
<内容>	ねらいを達成するための指導事項を記しています。
<指導の観点>	指導にあたって留意すべき点や配慮すべき点を記しています。
<展開例>	指導展開の一例を示しています。
<活動内容>	展開例で考えられる幼児の活動について記しています。
<環境の構成・教師の援助>	展開例で考えられる指導者の環境構成や援助を記しています。
<資料の活用について>	教育資料の活用例や、活用にあたっての配慮事項等を記しています。

分類	1 - (1) 2 - (2) 3 - (2)			資料名	あいさつをしよう
資料について	 <p>あいさつカード 5種類</p>		 <p>「すてきなことば」 楽譜</p>	<p>「あいさつカード」は、いろいろな人とあいさつをするときに、色塗りをしたり、シールを貼ったりしてあいさつをすることが楽しくなるようにするために作成しました。</p> <p>「すてきなことば」の歌は、いろいろな場面に応じてのあいさつの言葉があることを知ったり、「ありがとう」「ごめんなさい」など人と気持ちをつなぐ言葉があることを歌いながら覚えたりできるように作成しました。</p>	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> あいさつを交わすことで、互いに気持ちが通じ合う喜びを味わう。 				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「すてきなことば」の歌を通して、時や場面に応じたあいさつの言葉があることを知る。 ○ あいさつを交わすことで気持ちがつながっていくことを知る。 				
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> あいさつの言葉が、人と人を結びつけることに気づくようにしていく。 「あいさつカード」を使用し、あいさつをする楽しさを感じられるようにする。 幼児だけでなく、保護者や地域の人にもあいさつの輪を広げていく。 				
展開例	活動内容		環境の構成・教師の援助		
	<p>① いろいろなあいさつの言葉があることを知る。</p> <div data-bbox="260 1178 1225 1267" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教師：「おはようございます」これは、朝のあいさつですね。 みなさんは、ほかにどんなあいさつの言葉を知っていますか。</p> </div> <div data-bbox="240 1279 799 1525" style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お昼に会ったら「こんにちは」 ・幼稚園から帰るときには「さようなら」 ・夜に会ったら「こんばんは」 ・寝るときには「おやすみなさい」 </div>	<p><input type="checkbox"/> 教師が進んで明るく気持ちのよいあいさつをし、幼児の良きモデルとなるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 楽しく歌いながら生活の中で気持ちのよいあいさつの言葉が身に付くようにしていく。</p> <p><input type="checkbox"/> 歌から出てきた子どもの自然な動きや身振り表現を大切に、動きを入れながら歌うことを楽しむ。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分があいさつをしたときや、相手があいさつを返してくれたときに、どんな気持ちがあったかなど、相手とつながる気持ちに気づかせる。</p>			
<p>② 歌を歌いながら、場面に応じたあいさつの言葉があることを知る。</p> <div data-bbox="248 1693 1430 1794" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教師：「すてきなことば」というあいさつの歌があります。みんなの知っているあいさつの言葉が出てきます。先生が歌ってみます。聞いていてね。</p> </div> <div data-bbox="248 1827 799 2029" style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>教師 ♪「なかなかおることば」 ・ごめんなさい</p> <p>教師 ♪「うれしいことばつたえよう」 ・ありがとう</p> </div>	<p><input type="checkbox"/> 「すてきなことば」の歌（P 8～9 参照）</p> <p><input type="checkbox"/> クラスに外国籍の幼児がいる場合は、その国のあいさつを紹介し、興味や関心がもてるようにしていく。</p>				

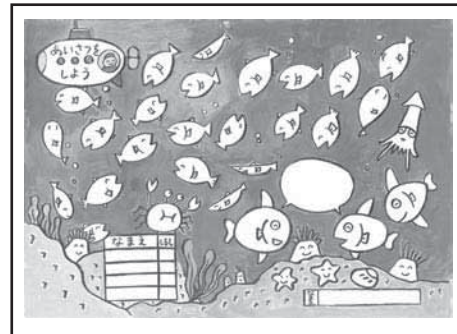
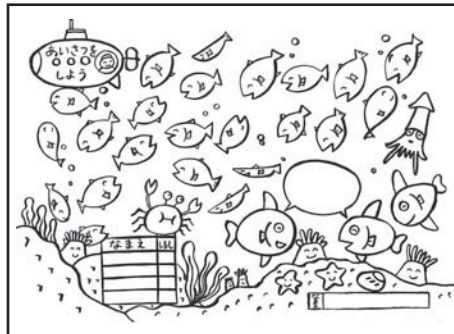
	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展	<p>教師：歌の中に、みんながよく知っている言葉ができましたね。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい気持ちを伝えるとき、「ありがとう」 ・けんかしたとき、仲直りすることばもあった。「ごめんなさい」 	<ul style="list-style-type: none"> □ 歌を歌いながら、季節や天候にあわせたあいさつだけでなく、感謝の気持ちを表したり、仲直りをしたりする言葉があることに気づかせる。 □ 自分の気持ちを素直に言葉で伝えられるようにすることの大切さを知らせる。
	<p>教師：そうですね。「ありがとう」って友だちに言ったら、なんだか自分もうれしくなってきましたね。</p>	
開	<p>③「あいさつカード」の使い方を知る。</p> <p>教師：これは、「あいさつカード」です。家の人や知っている人とあいさつをしたときに、色塗りをしたり、シールを貼ったりしてみましょう。名前も書けますよ。家の人やおじいちゃん、おばあちゃん、いろいろな人とあいさつができるね。</p>	
	 <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ（吹き出し）にあいさつの言葉を書くだね。どんなあいさつにしようかな。 ・誰とあいさつしようかな。朝起きたらお母さんとあいさつしよう。お父さんさんともしよう。 ・家族みんなのできるね。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「あいさつカード」を使い、あいさつの習慣が身に付くようにするとともに、家族や身近な人とあいさつを交わすきっかけにする。 □ 「おはよう」「こんにちは」など、自分たちであいさつの言葉を決めさせる。 □ 元気にあいさつをすると、気持ちがよいことに気づかせる。 □ あいさつを交わす楽しさ、うれしさが感じられるようにしていく。 □ あいさつを通して、身の周りの人々とかかわりをもつことを大切にする。 □ 保護者会等で、保護者同士や保護者と教師が進んであいさつをする姿を子どもたちに示すことの意味を伝え、家族の協力を得る。 □ 元気にあいさつすることが、不審者に対する抑止力になることを伝える。
資料の活用について	<p>○「あいさつカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「はる」、「うみ」、「ほし」、「ぶどう」、「ゆき」の5種類があり、1年間を通して取り組める。 ・ カードには、カラータイプと白黒タイプの2種類がある。幼児の実態に合わせて選ぶ。 ・ どのあいさつの言葉に取り組むかを自分で考えて、吹き出しにあいさつの言葉を入れる。 ・ あいさつをしたら、色塗りをしたり、シールを貼ったりする。 ・ カードに、自分だけでなく家族の名前を記入し、家族でも取り組めるようにする。 ・ いろいろな人と、たくさんあいさつをしたことが分かるようにする。 	

《 「あいさつカード」の種類 》

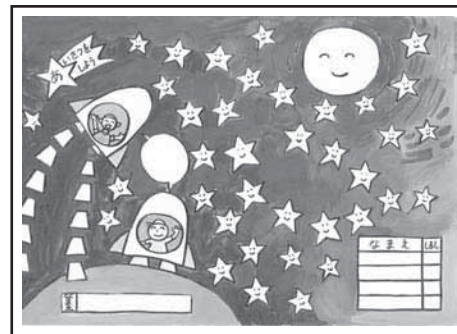
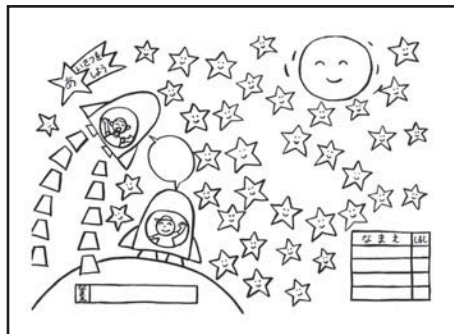
〈はる〉



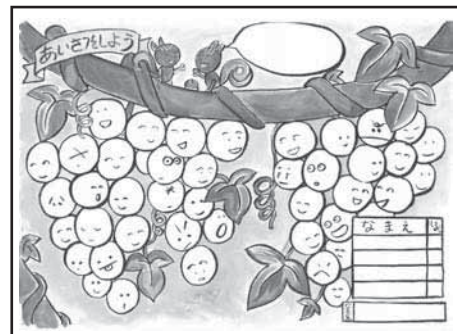
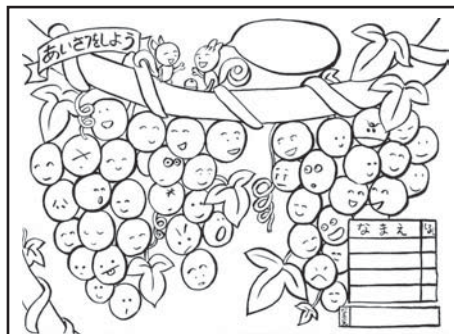
〈うみ〉



〈ほし〉



〈ぶどう〉



〈ゆき〉



すてきなことば



作詞・作曲 塚本 伊津美


The musical score is written in 4/4 time with a key signature of one flat (B-flat). It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The piano accompaniment features a steady eighth-note bass line and a more active treble line with chords and eighth-note patterns. The lyrics are written in hiragana and are placed below the vocal line.

あさ になったら おは よう ひる です よ こんにちは
よる になったよ こんばん は ねむ いねむ い おやすみ なさい
いろんなあいさつ が ある ね ある ね
なかなおりする ことば ごめん な さい

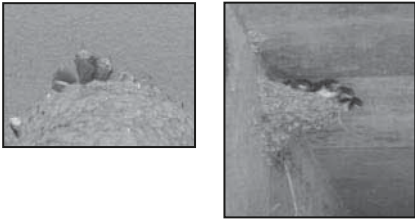
いろいろなあいさつ が ある ね ある ね
 うれしいきもち つたえよう あり が と う
 あいさつをしよ う あいさつを すれ ば
 いつのま に か と も だ ち さ

This musical score is written in a three-staff system (treble, piano, and bass clefs) with a key signature of one flat (B-flat). The lyrics are in Japanese and are placed below the treble clef staff. The music consists of a melody line, a piano accompaniment, and a bass line. The lyrics are:

分類	1- (2) 2- (1)	資料名	たいせつないのち (年長児限定)
資料について	 <p>カードA 包まれている命 カードB つながる命</p>	<p>「たいせつないのちのカード」は、自分の顔や名前を記入しながら、自分が大勢の人に包まれて存在していることや命の大切さに気づくために作成しました。</p> <p>身近な人とのかかわりを中心に描くカードAと家族のつながりを中心に描くカードBの、2つのパターンがあります。</p> <p>どちらのカードを使うかについては、幼児の実態を考えて指導計画をたててください。</p>	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の命が、かけがえのないものであることを知る。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「たいせつないのちのカード」を活用し、命のつながりに気づく。 ○ 自分の命は、まわりの人々に守られ大切にされていることに気づく。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> 対象は5歳児である。 両親、きょうだい、親戚、地域の人等の存在やお世話になっている人々のことを意識させる。 自分の命は、大勢の人に包まれ支え守られていることを知らせ、命の大切さを感じさせる。 カードBについては、事前に保護者の了解を得ることが必要である。 		
	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助	
展	<p><カードA>展開例</p> <p>① 自分の顔(名前)をかく。</p> 		
開	<p>教師：いろいろな大きさの丸があるね。真ん中の一番大きな丸に自分の顔や名前をかきましょう。</p>	<p>□ 自分の似顔絵の特徴や、名前のいわれについて話し、自分自身の存在を感じさせる。</p>	
例	<p>② 自分にかかわりのある人の顔(名前)をかく。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん、お父さんをかこうかな。 ・おばあちゃんをかこう。 ・親戚の○○ちゃんとサッカーをするよ。 ・これは、警備員の○○さんだよ。 ・お母さんの妹の○ちゃん。 ・先生もかいたよ。 ・お芋ほりした時の畑のおじさんをかこう。 	<p>□ 身近で親しい人の存在をかくことを通して、大勢の人の存在を意識し、人とのつながりに気づくようにさせる。</p> <p>□ お世話になっている事を思い出せるように助言しながら、家族や周囲の人々に感謝の気持ちをもてるようにする。</p> <p>□ 友だちのかいたカードに関心をもち、自分が気づいていなかった人の存在を知るきっかけにする。</p> <p>□ カードを作成する過程で、自分が大勢の人に包まれて大切にされていることを実感し、自分の存在が確かなものになるようにする。</p>	

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p><カードB>展開例</p> <p>① 「たいせつないのちのカード」一層に自分の顔と名前をかく。</p> 	<p>* その月の誕生児と一緒に活動できるように場を設定する。</p> <p>◎ すべての幼児が取り組むためには、保護者全員の了承を得るなど、家庭環境に配慮することを教師間で共通理解して、指導計画を作成することが必要である。</p>
	<p>教師：〇月生まれのAさん、Bさん。6歳のお誕生日おめでとうございます。このカードの一番下の丸に自分の顔と名前をかきましょう。</p>	<p>□ 事前に保護者に出産時の身長・体重・名前のいわれを記入してもらったり、お祝いのメッセージカードを書いてもらったりしておく。</p>
例	<p>教師：みなさんは、誰が産んでくれたのか知っていますか。 また、みなさんは、産まれてきたときの話を聞いたことがありますか。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんから産まれてきたよ。 ・産まれてきたとき、うれしかったって言っていたよ。 ・産まれてくるまで、心配だったって。 ・おじいちゃん、おばあちゃんも病院に来たって言っていたよ。 	<p>□ 保護者からのメッセージカードを読むなど、幼児の誕生を家族みんなで心待ちにしていた様子を伝え、産まれてきたことの喜びを感じることができる雰囲気づくりをする。</p>
	<p>② 「たいせつないのちのカード」二層に、両親の顔や名前を書く。</p> <p>教師：お父さん、お母さんの顔をかきましょう。名前も知っていますか。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん、めがねをかけているよ。 ・お父さんの名前は〇〇、お母さんの名前は〇〇。 ・お父さんは〇才、お母さんは〇才。 ・お父さんは〇〇の仕事をしているよ。 ・お母さんには妹がいるよ ・お母さんは、双子だよ。 	<p>□ 両親のことを自由に話せる場を設けるなど、雰囲気を大切に、両親のことを思いながら楽しく描く姿を認める。</p> <p>□ 一人親家庭の幼児等には特に配慮し、個別に対応するなどの配慮が必要である。</p>

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開 例	<p>③ 「たいせつないのちのカード」三層に、祖父母の顔や名前をかく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>教師：では、お父さん、お母さんは、誰が産んでくれたのでしょうか。 お父さん、お母さんの上の丸にかきましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃん、おじいちゃんから産まれた。 ・お父さんのおばあちゃんとおじいちゃんは〇〇に住んでるよ。 ・おばあちゃん、この間お迎えにきてくれたよ。 ・お母さんのおじいちゃんは、死んだんだって。でも、ちゃんとお空から見てくれてるって、お母さんが言ってたよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 三層の部分には、4つの丸い空間があり、二層の上につながることに気づくような助言をする。 <input type="checkbox"/> 祖父母がいない幼児には「亡くなっているよ、〇〇さんを見守っていてくれるよ。」など、個別に声をかけるようにする。 <input type="checkbox"/> 友だちの祖父母の話を聞いたりして、高齢者への親しみや思いへとつなげる。
	<p>④ 「たいせつないのちのカード」四層の挿絵を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>教師：一番上に、いろんなおじいさんやおばあさんの絵がありますね。 この絵は誰かわかりますか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひいおばあちゃんやひいおじいちゃんのことかな。 ・ひいおじいちゃんは死んでしまったよ。 ・ゲートボールをしているのかな。 ・紙ヒコーキ、こま回し、けん玉もある。 ・編み物をしているのかな。 など </div>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自分の似顔絵が、両親、祖父母、曾祖父母に囲まれる絵から、たくさんの人と自分の命がつながっていることに気づかせる。
資 料 の 活 用 に つ い て	<p>○「たいせつないのちのカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年長児対象に活用する。 ・ カードB「つながる命」を活用するときには保護者の同意を得るなど、個々の家庭の事情に配慮をする。 ・ 毎月の誕生会の前に教師が対象となる幼児と会話をしながら、幼児がカードを作成できるよう支援する。特に、自分とかかわる人々の存在に気づきにくい場合は丁寧に支援する。 ・ 命のつながりに関心を持ち、幼児自身も次世代へ命をつなぐことに気づかせることもできる。 ・ カードB「つながる命」は、保護者へのプレゼントや誕生会の記念のアルバム（思い出）にできる。 ・ 命のつながりや自分を見守る人々の思いを知ることができるよう、親世代、祖父母世代のゲストを招いて、話を聞かせてもらう機会をもつこともできる。 	

分類	2-(1)	資料名	生きもののせいかつ
資料についてねらい	 <p>この資料は、ツバメの観察を通して、命の大切さや生きる力を感じさせるために作成したものです。 それぞれの地域の実態にあわせて、お話を創作することができます。</p>		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ツバメを思いやる親ツバメの気持ちを実感する。 ○ 親やきょうだいの愛情を感じて成長していく子ツバメの姿に共感する。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ ツバメだけでなく、身近な生きものを継続して観察ができるようにする。 ・ 幼児が観察したことや感じたことを話し合ったり、表現したりする。 ・ 写真等の教材を通して、興味や関心を高める。 		
展開例	活動内容	環境の構成・教師の援助	
	<p>① 見つけたツバメの巣の話を書く。</p> <p>② 資料の写真を見たり、お話を聞いて気づいたことを話し合ったりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：巣の中で留守番をしている子ツバメは、どんな気持ちかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どこに行ったのかな。 ・ 早く帰ってこないかな。 ・ お腹がすいたよ。 ・ お母さん、寂しいよ。 ・ 我慢しよう。 ・ お留守番、頑張るよ。 </div>	<p><input type="checkbox"/> 幼児が、自宅や幼稚園の近くで見つけたツバメの巣のことを友だちに紹介する。</p> <p><input type="checkbox"/> 幼児が想像を膨らませ、様々な思いをもつように写真や図鑑等を身近な所に置く。 ＜巣作りをするツバメ・空飛ぶツバメ・卵を温める親ツバメ・孵化したばかりのヒナ・大きくなった子ツバメ等＞ * 地域によっては、ツバメの巣を実際に見に行く。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ツバメが、親ツバメがいないとき、どんな気持ちで留守番をしているかなど、自分の経験と重ねて考えさせる。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ツバメが親ツバメを待つ様子や、親ツバメが巣に戻ったときの子ツバメの姿から、親子のつながりについて考えさせる。</p> <p><input type="checkbox"/> 餌を何度も採って子育てをする親ツバメの懸命さに気づかせる。</p>	

<お話> ツバメの親子

商店街のクリーニング屋さんの軒下に、ツバメが巣作りを始めました。ツバメは近くの川の泥をくわえ、何度も泥を運んで、やっと丈夫な巣ができました。クリーニング屋さんのお婆さんは、「今年も来たんだね。」とほほえんで見ていました。

お父さんツバメとお母さんツバメは、産まれた5つの卵を交代で温めます。しばらくすると、5羽のヒナが産まれました。まだ産まれたてのヒナたちの声は、小さくひ弱でした。お父さんツバメとお母さんツバメは、ヒナたちのために、一日に何度も何度もえさを採りに行きました。

やがて、子ツバメたちは少し大きくなり、巣から顔が見えるようになりました。お父さんツバメとお母さんツバメが帰ってくると、子ツバメたちは大きな鳴き声を上げたり、巣の中で押し合ったり、時には巣から身を乗り出したりして、とても元気です。

子ツバメたちが巣から外の世界を見ていると、車や人がたくさん通って、商店街はとてにぎやかでした。その中をすいすいとすり抜けて飛ぶお父さんツバメやお母さんツバメはとても素敵で、子ツバメたちは、「早く大きくなりたいな。」とあこがれの気持ちで見っていました。

また、子ツバメたちは、お父さんツバメやお母さんツバメがいないときは、巣の中で用心して静かに待つようにしていました。

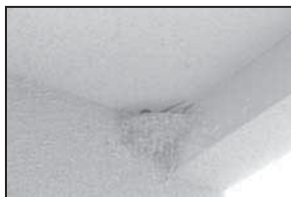
しばらくして、5羽の子ツバメはずいぶん大きくなり、巣の中で羽根を広げるなど、じっとしていません。この頃になると、お父さんツバメとお母さんツバメは、巣の近くの電線に止まって、「早くここまでおいで」と呼ぶのです。どの子が初めに巣を飛び出すのでしょうか。

電線で待つお父さんツバメとお母さんツバメは、「勇気を出して早くおいで。」「大丈夫だよ。」と声をかけました。子ツバメたちは、何度もためらいましたが、ついに1羽が飛び出しました。

「やったー。」「できたー。」

そのきょうだいツバメの姿を見て、次々と子ツバメたちは電線まで飛んで行きました。一人で飛べるようになった子ツバメたちを見て、お父さんツバメとお母さんツバメは大喜びです。今日からは、家族みんなで一緒に空を自由に飛び、そして、自分でえさを採る勉強を始めるのです。

クリーニング屋のお婆さんは、ツバメの家族の巣立ちを見て、「また、静かになって寂しいね」と、旅立つツバメの家族を見送るのでした。



卵を温める親ツバメ



餌を求めるヒナ



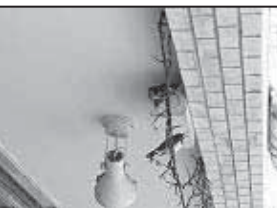
ヒナに餌を与える親ツバメ





巣で待つ子ツバメ



巣の周りで巣立ちのときを待つ子ツバメ


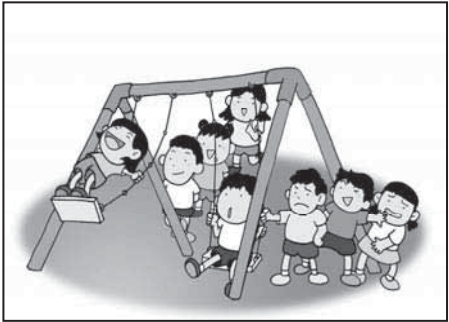


巣から出た子ツバメ

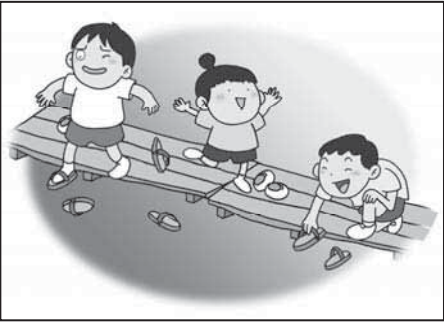

分類	3-(1) 3-(2)	資料名	どんな気持ち
資料について	 <p>「友だちカード」は、幼児が自分の感情を相手に言葉で伝えられないときや、友だちの表情から感情を読み取るための、16の表情を補助資料として作成しました。</p>		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを表したり、言葉にして伝えたりする喜びや心地よさを実感する。 友だちの思いや考えを知り、相手を尊重する気持ちを育てる。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「友だちカード」を見て、様子を読み取ったり感じたりする。 ○ うれしいとき、悲しいとき、怒っているとき、困っているときの表情や気持ち、状況を共感する。 ○ 自分の気持ちに気づいて、言葉で気持ちを伝える。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> 「友だちカード」を見て、友だちが考えていることや思っていることに気づかせる。 幼児が生活の中で、見たことがある表情を読み取ったり、感じたりすることを大切にする。 		
展 開 例	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助	
	<p>① 「友だちカード」を見て話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：今日、けんかしたって聞いたよ。どうしたのかな。</p> </div> <p>② そのときの自分の気持ちは、「友だちカード」のどれなのか発表する。選んだカードの表情から、そのときの自分や友だちの気持ちを考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○ちゃんが蹴っていたんだよ。 ・蹴ってないよ。当たっただけだよ。 ・二人が蹴りあいしていたよ。 ・悪口を言っていたんだよ。 ・「いやー」と言ったんだ。 ・先生を呼びに行ったんだ。 ・ぼくは、見ていなかったから知らないよ。わからないよ。 ・「どうしたん」と聞いたけど・・・ </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">【幼児が選んだ「友だちカード」】</p> <p>苛立ち・おどろき・悲しい・無関心・困った・あきらめ など</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 園の生活の中でおきたけんかについて、たくさん幼児が話せるように配慮する。 <input type="checkbox"/> 友だちの表情を思い出し、自分の気持ちと重ね合わせて考えられるようにする。 <input type="checkbox"/> 表情は同じでも、選んだ理由は幼児によってその理由が違うことに気づかせる。そのとき、どんな声かけをしたらいいのか考えられるようにする。 <input type="checkbox"/> 傍観するのではなく、友だちとして優しく声をかけることが大切なことに気づかせる。 <input type="checkbox"/> カード選びをしているときに、「気持ち」から離れることがあるので、話をよく聞くようにする。 <input type="checkbox"/> 自分じゃなくてよかったと思う幼児もいるかもしれないが、素直に表現したことは、受け止めるようにする。 	
			

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開 例	③ いろいろな気持ちの友だちがいることを知り、どんな声かけをしたらいいか考える。	<input type="checkbox"/> 友だちのいろいろな表情を見て、どのように接していったらいいか考える。 <input type="checkbox"/> 怒っている顔、しょんぼりしている顔など。 <input type="checkbox"/> 友だちのことを理解する必要があることに気づく。 <input type="checkbox"/> 自分と友だちとの気持ちの違いに気づく。
	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
そ の 他 の 展 開 例	<p>① ポケットから何が出てくるのか期待をしながら、♪「不思議なポケット」の歌のワンフレーズを歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：みんなは、こんな表情をしたことがあるかな。それはどんなときかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑っている顔。楽しそう。 ・怒っている顔。腹をたてている。 ・泣いている顔。悲しそう。 ・困っている顔。迷っているのかな。 </div> <p>② 日常の中で、「友だちカード」の中にあるような表情になったことはないか、また、友だちの表情から感じたことはないかなど、話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の朝、うれしい顔になったよ。だってね、〇〇ちゃんが、遊ぼう！って誘ってくれたから。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：それはうれしかったね。だから、△△ちゃんはうれしい顔をしたのね。じゃあ、〇〇ちゃんは、△△ちゃんのうれしい顔を見て、どんな気持ちになったかな。</p> </div> <p>①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：今の遊びで、友だちと話し合いたいことは、どんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいと感じたことは ・困ったことは </div>	<p>① ♪「不思議なポケット」を歌い、ポケットから何が出てくるのか、期待感をもたせる。</p> <p><input type="checkbox"/> いろいろな表情が見比べられるように「友だちカード」を並べて掲示する。 <input type="checkbox"/> 「友だちカード」の掲示は、年少児は喜怒哀楽の4枚から始めたりするなど、発達段階に応じた枚数にする。 <input type="checkbox"/> 話し合った後、「友だちカード」をよく見える場所に掲示し、自分の気持ちを「友だちカード」と照らし合わせられるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 幼児が「友だちカード」を見て感じたことを丁寧に受け止めながら、人にはいろいろな感情があることに気づけるようにする。 <input type="checkbox"/> 発達段階に応じた話し合いにする。</p> <p><input type="checkbox"/> いろいろな感情を素直に表現してもよいことを知り、友だちの気持ちを感じる心を育てていく。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分の思いばかりでなく、友だちの様子に気づき、考えられるよう丁寧に話し合う。</p> <p><input type="checkbox"/> 遊びの振り返りのときに、自分の気持ちを伝え合うことを通して、一日の中でも、様々な感情がわき起こることに気づいたり、そうした感情は自分だけでなく、友だちにもあることに気づいたりできるようにする。</p>

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
そ の 他 の 展 開 例 ①	<p>③ 遊びの後の振り返りのとき（わかちあい）に、「友だちカード」を使い、話し合う。</p> <p style="text-align: center;">【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく歌ったよ。 ・ 2人でお山を作ったよ。 ・ よしてって言ったのによしてくれなかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 遊びの中で感じた気持ちを「友だちカード」を用いて話し合い、自分の思いを振り返ったり相手の思いに気づいたりできるよう、丁寧に支える。 □ 言葉で伝えると、相手に自分の思いがより伝わりやすいということに気づかせる。 □ 幼児、特に年少児が迷って判断に困らないように、「友だちカード」の種類や数などについて配慮する。
そ の 他 の 展 開 例 ②	<p>① ポケットの中から何が出てくるのか期待しながら、♪「不思議なポケット」のワンフレーズを歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：この友だちの表情を見て、みんなはどんなことを感じるかな。 この友だちは、どんなことを思っているのかな。何があったのかな。</p> </div> <p>② いろいろな表情から、自分や友だちの気持ちを考え、話し合う。</p> <p style="text-align: center;">【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 喜びの表情 かけっこで一番になったのかな。 ・ 悲しい表情 お腹が痛いのかな。 けんかしたのかな。 足を踏まれたんだよね。 	<ul style="list-style-type: none"> □ ♪「不思議なポケット」を歌い、ポケットから何が出てくるのか、期待感をもたせる。 □ それぞれの表情に対する幼児の思いを受け止めていく。 □ 家庭や園での様子など今までの幼児の生活と重ね合わせていくような言葉かけをする。 □ 幼児が、一日の中でもいろいろな表情が変化することに気づくようにする。 □ 話し合う中で、自分の気持ちを表現したり、友だちの存在や気持ちに気づいたりできるようにする。 □ 自分がどんな気持ちのときに、「友だちカード」のような表情になるのかを思い出させることができるようにする。 □ 提示された「友だちカード」のような表情を友だちがしたときは、どんな気持ちなのか考えさせる。
資 料 の 活 用 に つ い て	<p>○「友だちカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ表情でも、幼児一人一人の感情の読み取りは違う。幼児に「友だちカード」を見せて、いろいろな感情のとらえ方があることを、共有できるようにする。 ・ 一日の生活の振り返りをするときや、問題解決の場面で、それぞれの幼児の感情の整理をしたり、その気持ちを共有したりするときに活用し、実生活の中で生かせるようにする。 ・ 「友だちカード」の表情を読み取り、気持ちを言葉で表せるようにする。 	

分類	3-(1) 3-(2)	資料名	あそびの中で
資料について	 <p style="text-align: center;">生活パネル 6場面</p>		<p>「生活パネル」は、屋内や屋外の幼児の生活の様子が6場面描かれています。</p> <p>友だちとの関わり方や生活のルールについて話し合うために作成したものです。</p> <p>必要に応じて、「友だちカード」を、自分や友だちの気持ちに気づき合うための話し合いに活用できます。</p>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 生活のきまりを知り、自分のことは自分ですようとする。 遊びのルールの必要性に気づき、友だちと一緒に考えて行動する。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考え、自分の力で行動しようとする。 個人のものや共同のものがあることを知る。 きまりの必要性を理解し、守ろうとする。 相手の立場に立ったり、気持ちを理解したりする。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> 身辺自立の確立とともに遊びや生活のルールやマナーを知り、守ろうとする気持ちを育てる。 自分の思いを素直に伝えたり、お互いの思いが感じ合えたりできる環境作りに努める。 仲間とともに気持ちを合わせたり考えを出し合ったりして、意欲的に取り組む姿勢を育てる。 		
	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助	
展 開	<p>① 「ブランコ遊び」「砂場遊び」「おにごっこ」「手洗い場」「スリッパ並べ」「積み木遊び」の6枚の「生活パネル」と「友だちカード」を使い話し合う。</p>		
開 例	<p>○「ブランコ遊び」を見て話し合う。</p> 		
	<p>* 特に、年度始めに見られる幼児の姿や、トラブルが起きたときなど、遊びの振り返りやクラスでの話し合いに活用する。</p> <p>□ 「生活パネル」を見せ、幼児が気づいたことを話したり、友だちの話を聞いたりする場を設ける。</p> <p>□ 必要に応じて「友だちカード」を活用する。友だちの表情や気持ちを、自分のこととして考えられるように声をかける。</p> <p>* A：順番を守ってブランコ遊びを楽しんでいる幼児のグループ</p> <p>B：いつまでも交替しない子や、順番ぬかしをしている幼児のグループ</p>		

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展	<p>教師：山を作って遊んでいる子がいるね。何か、気がついたことはあるかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく山を作ったのに、壊している。 ・壊さないで、と言っている子がいる。 ・なんで、壊しているのだろう。 ・恐竜になって、壊しているのかなあ。 ・トンネルが上手く作れなくて、腹がたつて壊したのかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 何故、山を壊しているのか、その理由について、自分の経験と重ねて考えられるようにする。 □ 山を壊している幼児の行動を責めるのではなく、幼児の気持ちに気づくことができる話し合いにしていく。
	<p>教師：こんなときは、どうしたらいいのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく大きな山ができたのに、どうして壊すの？と聞く。 ・もし、トンネルができなくて腹をたてているのなら、壊さないで一緒に作ろうと言う。 ・恐竜になっているのなら、この山は壊して欲しくない。壊しても良い山を作ろうと言う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 相手に理由を聞くことで、相手の気持ちを知ることができることに気づかせる。 □ 相手の思いを受け止め、どうすればよいか考えたり、お互いに折り合いをつけたり、相手に嫌な思いをさせたことを素直に謝ったりするコミュニケーション力を育てていく。 □ 自分たちの遊びの中でも同じようなことがあることに気づかせ、どうしたらみんなで楽しく遊べるかを考えさせる。
開	<p>教師：ホースの水がかかっている子がいるね。どうして水がかかったのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホースでバケツに水を入れようとして、友だちにかけてしまった。 ・顔に水がかかって泣いている。 ・ホースを持っている子は、水がかかった子に気づいていないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> □ わざとホースの水をかけたのではないことに気づかせる。 □ 幼児の生活の中でも、偶然、相手にとって嫌なことをしてしまうことがある。その時に、相手の気持ちに気づかせたり、相手に対してどうしたらいいのかを話し合わせたりする。
	<p>教師：こんな時は、どうしたらいいのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わざと水をかけたのではなく、謝らないといけない。 ・ホースから水を入れる時は、周りに友だちがいなくてよく見ないとけない。 ・水は、いきなりホースから入れない方がいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 相手に迷惑をかけたときは素直に謝ったり、相手の気持ちを受けて許したりするなど、お互いに許し合える仲間づくりが大切であることに気づかせる。 □ 水をホースからバケツに入れるのではなく、タライに水を溜めたりバケツで汲んだりするなど、幼児とともにルールを考える。
例		

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展	<p>○ 「スリッパ並べ」を見て話し合う。</p> 	<p>* A : スリッパを整頓している子 B : スリッパを散らかしている子 C : スリッパが揃っていないので、履くときに困っている子</p>
	<p>教師：スリッパを履こうとしています。どんな子がいるかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スリッパを脱ぎ散らかしている。 ・履こうとしたら、スリッパがバラバラだから困っている。 ・ちゃんと揃えている子がいる。 	
開	<p>教師：では、自分が使ったスリッパを脱ぐときは、どうすればいいのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スリッパは、揃えるんだよ。 ・スリッパは向きがあるんだよ。 ・はきやすいように、揃えて並べる。 	<p>□ スリッパ並べは、次に使う友だちが気持ちよく使えるようにと、見えない相手のことを思っている行動である。なぜスリッパを並べることが必要なのか、年齢に合った話し合いにより気づかせる。</p> <p>□ 集団で生活するには、自分のことだけでなく周りの人のことも考えて行動しないといけないことを、自分たちの生活を振り返ることで気づかせる。</p>
	<p>○ 「積み木遊び」を見て話し合う。</p> 	<p>* A : 積み木を片づけている子 B : 積み木を片づけている子に気づかず、遊び続けている子 C : 積み木箱の場所を教えている子</p>
例		

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開 例	<p>教師：積み木遊びの片づけの時間になりました。どんな子がいるかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積み木を片づけている。 ・まだ遊んでいる子がいる。 ・片づける場所を教えている子がいる。 	<p>□ 幼児の中には、楽しく遊んだことに満足して片づける幼児もいれば、集中して遊んで続ける幼児もいる。それぞれの幼児の状況や特性、思いを受け止めながら、片づけができるよう支えていく。</p>
	<p>教師：みんなが片づけていることに気づいていない子がいますね。どうすればよいのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「片づけの時間だよ。」って知らせる。 ・「みんな片づけてるよ。」って教える。 ・「あそこに片づけるんだよ。」って言う。 	<p>□ 片づけに気づかず、集中して遊んでいる幼児について話し合う。周りの様子に気づいていない友だちに気づいたときには、知らせたり伝えたりすることの大切さに気づかせる。</p> <p>□ 友だちにどんな言い方をすれば分かってもらえるかを話し合い、相手の気持ちや相手の立場に立ち考えることができるようにする。</p> <p>□ 友だちの行動に関心をもって関わられるような、温かな人間関係を築くようにする。</p>
資料の活用について	<p>○「生活パネル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外の幼児の姿として、「ブランコ遊び」、「砂場遊び」、「おにごっこ」を描いている。 ・屋内の幼児の姿として、「手洗い場」、「スリッパ並べ」、「積み木遊び」を描いている。 ・遊具の遊び方や生活のルールなどが共通理解できるよう、遊びの振り返りなどの話し合いで「生活パネル」を使用する。 ・楽しそうにしている幼児、周りの友だちに迷惑をかけている幼児など、様々な遊びの場面がある。それぞれの場面と幼児の生活とを重ね合わせながら、どちらの幼児の思いにも気づき、豊かな人間関係づくりが図れるように教師が働きかける。 ・特に年度当初の遊びの様子から、友だちの気持ちに気づけるよう、必要に応じて「生活パネル」と「友だちカード」を併用する。 	

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展	<p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園をきれいにしてくれてありがとう。 ・車に気をつけるんだよ。 ・駅はどっちですか。 ・重いでしょう。手伝います。 ・パトロール、いつもありがとう。 ・行ってらっしゃい。行ってきます。 ・おいしいね。パン大好き。 <p>③ 声をかけられたり、手伝ってもらっている人がいることに気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 幼児が、様々な気づきを自由に発言できるようにする。 □ 場所や目印を指定し、みんなでその場面の人のかわりについて話をさせる。 □ 自分の地域でも、身近な人と自分から進んで話をしたり、かかわったりできるようにする。
開	<p>教師：声をかけられると、どんな気持ちかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい。 ・元気だな。 ・親切だな。 ・優しいな。 <p>④ 各ピースについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 困っていたり、支援が必要な人がいることに気づかせ、自分たちにできること等を考えさせる。 □ ふれ合ったり、声をかけられたときの相手の気持ちを自分の経験に置き換えて考えさせ、優しさや思いやる心の大切さに気づかせる。 □ 助け合い、支え合って生活することの大切さや人への温かい言葉かけや行動をすることでみんなが笑顔になることに気づかせる。
例	<p>教師：絵にピンクの線がかいてあることに気づいたかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷路かな。 ・パズルかな。 <p>⑤ パズルで遊ぶ。 *パズルの作り方参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ パズルの線に気づかせ、ハサミでピース状に切り離す。 □ パズル遊びだけで終わらないよう、各ピースに描かれている人のかわりに目を向けて話しながら遊べるようにする。 □ 話し合った後に、ばらばらになったピースを元に戻し、パズルを完成させる。 □ パズルを作り、遊びの時間などで自由に使えるようにする。
資料の活用について	<p>○「みんなといっしょにパズル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体指導ではなく、小グループごとに指導してもよい。 ・遊びの時間に自由にさわって遊べるように、パズルを図書室や保育室に置く。 	

パズルの作り方



[準備するもの]



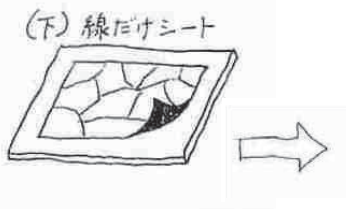
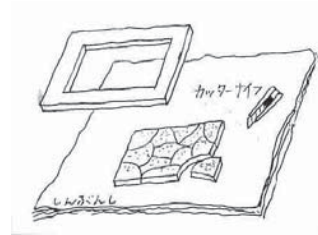
- ① A3のパズルシートを、固形のり、またはのりスプレーで、スチレンボードに貼る。



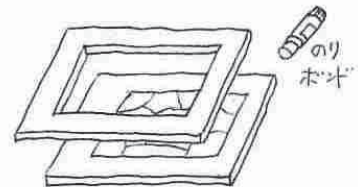
- ② カッターナイフでピースを切り離す。
※外枠も使うので、切り離すときに注意する。



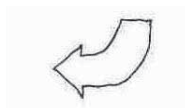
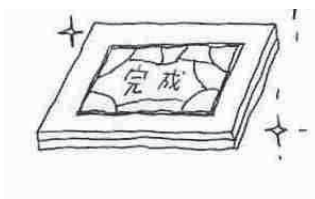
- ③ A3のパズル線だけシートを、固形のり、またはのりスプレーで、もう一枚のスチレンボードに貼る。



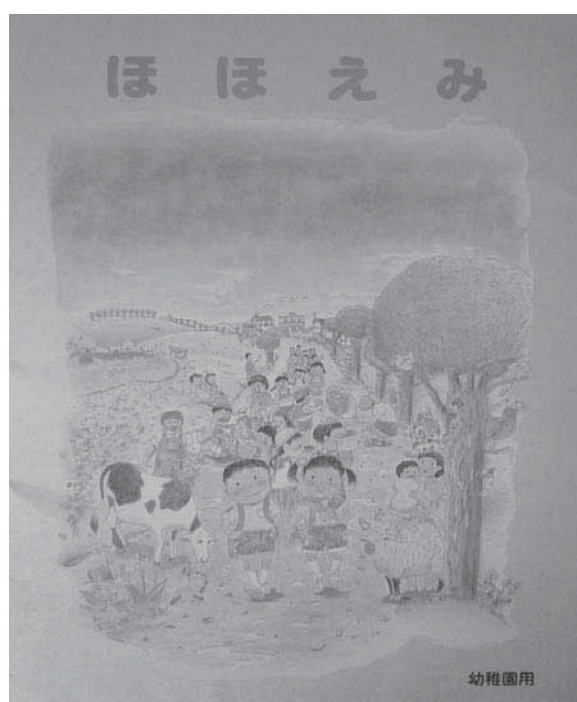
- ④ ②でパズルから切り離した外枠と③を固形のり、またはボンドで貼り合わせる。



- ⑤ ④に②のピースをはめ込んで完成。




平成 12 年度作成 幼稚園用教育資料『ほほえみ』 展開例



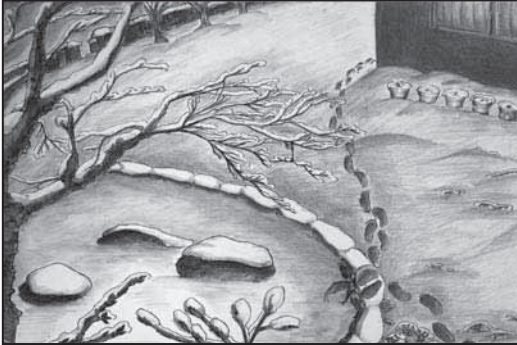
No.	資料名	分類		ページ
①	みんな生きている	2-(1)	人権意識の高揚	30
②	イチゴ	2-(1)	人権意識の高揚	32
③	もうすぐ春が…	2-(1)	人権意識の高揚	34
④	思っていること、教えて…	2-(2)	差別解消への態度の形成	36
⑤	おいしいね。	2-(2)	差別解消への態度の形成	38
⑥	ねえ、ねえ、聞いて	2-(2)	差別解消への態度の形成	40
⑦	うんとこしょ！ (みんなでいも堀り)	3-(1)	自立向上の精神の育成	42
⑧	のぼれたよ	3-(1)	自立向上の精神の育成	44
⑨	いっしょに つくろう	3-(1)	自立向上の精神の育成	46
⑩	ようちえん	3-(2)	思いやりの心の育成	48
⑪	ふれあいひろば	3-(2)	思いやりの心の育成	50
⑫	わたし あなた みんな	3-(2)	思いやりの心の育成	52

分類	2-(1)	資料名	① みんな生きている
資料について	<div data-bbox="245 349 743 703" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="858 434 1398 658" data-label="Text"> <p>このパネルは、夏から初秋の森の情景を描写したものです。図鑑としての活用を意図したものではなく、身近な動植物を中心に描き、幼児が思い浮かべたことを自由に表現できるようにしています。</p> </div>		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 小さな生きものの存在に興味・関心をもち、かけがえのない命に気づく。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児自身が一つ一つの小さな生き物の存在に気づく。 ○ それぞれの生きものが、精一杯生きていることを感じる。 ○ 自分自身を小動物に一体化させ、自然界にイメージを広げる。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が感じる「命」についての自由な発言をとらえ、活動を促す。 ・ このパネルを契機にして、身近なところにも小さな命があることに気づき、興味をもってそれらにかかわっていかこうとする意欲を高める。 ・ 家庭で自然と触れ合う遊びをしてほしいという、啓発の一つとして活用する。 		
展開例	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助	
	<ul style="list-style-type: none"> * 保護者対象の話し合い（学級懇談会など）で使用する。 * 事前に、幼児とパネルついて、感じたことや意見を出し合ったり、虫になって遊んだりしておく。 <p>① パネルを見て感じたことや、絵から読み取ったことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 事前にパネルのコピーを配付し、絵から感じることを、各自考えてもらう。 □ 同じ意見でもよいこと、意見に正解も間違いもないことを伝え、話しやすい雰囲気にする。 	

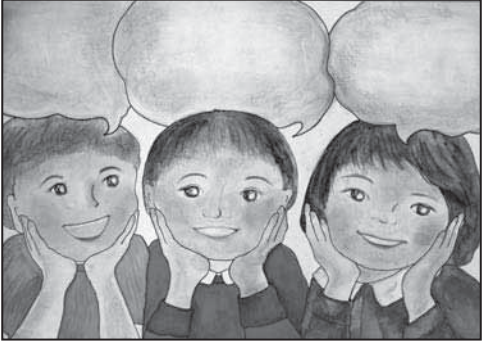
	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p>教師：このパネルは、夏から初秋の森の情景が描かれています。 このパネルを見た感想を話しましょう。</p> <p>【予想される保護者の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが虫を好きなので、こういう場所に行くと喜びそうです。 ・小さな生きものがたくさん生活していることが分かります。 ・自分が虫が苦手なので、あまり虫遊びをさせていません。 <p>② 幼児に同じパネルを見せたときの話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児たちが感じたこと ・特に興味をもったもの ・虫の表現遊びの様子 ・園での生活の中で、虫とかかわっているときの様子 <p>③ 幼児の様子を聞いて、自分の姿を振り返る。</p>	<p>□ 幼児が興味を持ったところと、保護者の意見が多く出たところの共通点と違いを明確にしていきながら、幼児の目線や思いについて理解を深めてもらう。</p>
	<p>教師：子どもたちの様子をお伝えしましたが、あらためて感じたことや、思ったことはありますか。</p> <p>* 幼児理解に繋がる、子育ての話し合いにする。</p> <p>【予想される保護者の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな生きものと触れ合うことの意味をあらためて感じました。 ・大人が気づかないことに、子どもはたくさん気づいているのですね。 ・子どもには子どもの世界があり、それを大切に見守っていくよう心がけたいです。 	<p>□ このパネルから、自然の動植物に興味をもったり、かかわったりする中で、命の大切さを感じるようになる。ついつい大人は、小さな生きものの存在を忘れがちになったり、毛嫌いしたりする傾向がある。幼児は、見たり触れたりしながら、生きものの命を感じている。</p> <p>□ 家庭でも、自然と触れ合う遊びを大切にしたいというメッセージを伝える。</p>
例		

分類	2-(1)	資料名	② イチゴ
資料について	 <p>このパネルは、幼児にとって身近な動植物であるイチゴとダンゴムシを素材として描いています。</p>		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な動植物に親しみ、自然と触れ合う中で命の尊さに気づかせる。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ イチゴやダンゴムシなど、身近な動植物に親しみを感ずる。 ○ 身近な動植物を観察したり育てたりすることを通して、それぞれに命があることを理解する。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然と触れ合えるよう、園庭などにイチゴ畑をつくったり、ダンゴムシ見つけなどの遊びを通して、日頃から小さな命を敏感に感じることができるよう環境を整えておく。 		
展開例	活動内容	環境の構成・教師の援助	
	<p>① パネルを見ながら、何の絵か考え話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>教師：このパネルには、ある植物が描かれています。 何が描かれているか、分かるかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あんな葉っぱ、見たことないよ。 ・ 青いところが赤くなっている。 ・ イチゴかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>□ パネルの表示方法を工夫する。 * イチゴの青い実の部分や、葉の部分など の一部だけを見せるなど、幼児の期待感を ふくらませるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>教師：正解は、イチゴでした。 みんなは、イチゴを育てたことはあるかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家で育てているよ。 ・ みんなで育てたよ。 ・ 家の近くに、イチゴの畑があるよ。 ・ 育てたことはない。 </div>		


	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展	② イチゴを育てるために、どのようにしたらよいのか考える。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">教師：おいしいイチゴを育てるために、みんなはどのような世話をしますか。</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水やりをするよ。 ・肥料をあげなければいけないね。 ・何もしないと、枯れていくね。 ・周りの草取りもするよ。 </div>	<input type="checkbox"/> イチゴを育てるには、水やりなど世話をしていかなければならないことが分かり、すすんで世話をしていこうとする気持ちを育む。
開	③ イチゴのそばにいる、ダンゴムシについて話し合う。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">教師：イチゴのそばに何かいますね。</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫がいるよ。 ・ダンゴムシかな。 ・花壇にもいるよ。 </div>	<input type="checkbox"/> ダンゴムシにとっては、イチゴを食べることが生きることにつながる、という視点で話し合いを進める。
例		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">教師：ダンゴムシは、イチゴのそばで何をしているのかな。</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イチゴを食べている。 ・おなかが減っているんだね。 ・ダンゴムシは、落ち葉を食べるよ。 </div>	<input type="checkbox"/> ダンゴムシは主に落ち葉や雑草などを食べて分解し、土を豊かにすることについて、発達段階に応じて指導者が説明をする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">教師：イチゴ畑でダンゴムシを見つけたら、みんなはどうしますか。</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に連れて帰ってくるよ。 ・みんなで、ダンゴムシを育てよう。 </div>	<input type="checkbox"/> 幼児の経験を生かしながら、ダンゴムシの育て方について話し合い、生きものを育てていこうという気持ちをもたせる。

分類	2-(1)	資料名	③ もうすぐ春が・・・
資料について			<p>このパネルは、園児がまだ登園していない早朝、雪が降り、薄い氷が張っている園庭の池周辺を描いています。</p> <p>足跡は、園の職員がコイの様子を見るために池にきて、園舎に戻って行ったということを表現しています。</p>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中で、たくましく生きている命を感じる。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 霜、雪、氷など冬の自然現象に興味や関心をもつ。 ○ 冬の厳しい自然の中で、たくましく生きている命に気づく。 ○ 自然の神秘や美しさ、不思議さに驚きの気持ちをもつ。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が、冬の自然に触れ合う機会を的確にとらえ、直接体験を通して、寒さや冷たさ、自然の不思議さなどを実感できるようにする。 ・ 一年間を見通した指導計画を作成し、地域の園の自然環境を生かして、それぞれの季節の中で十分自然に親しんだ生活ができるようにする。 		
展開例	活動内容	環境の構成・教師の援助	
	<p>① パネルから気づいたことを自由に発言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ふだんから季節の変化やその現象を感性豊かにとらえ、幼児に伝えたり、幼児の気づきに共感したりしていく。 <input type="checkbox"/> 氷が張る、雪が降るなど、幼児が冬の自然現象に驚きや感動をもった機会を生かすようにする。 <input type="checkbox"/> 幼児の言葉から読み取られる多様な気づきを受け入れて、より多くのことに幼児が興味や関心をもてるようにする。 	
	<p>教師：雪が降った日の朝です。どんなことに気がついたかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> これまでの幼児の体験を通してイメージを広げられるようにしたり、教師の思いを話したりする。 	

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪がたくさん積もっているよ。 ・こんなに積もったのを見たことがない。 ・細い木の枝にも積もっているよ。 ・足跡があるよ。誰かがこの池にやってきたんだ。 ・池の中も寒いんだね。コイがみんなが集まっているよ。 ・植木鉢に芽が出ている。 <p>② 身近な動植物など、冬の自然の様子について話し合う。</p>	
	<p>教師：園庭にいた虫たちは、今どうしているのかな。 木や草は、どうなっているのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒いから、外には出てきていないね。 ・きっと、土の中とか温かいところで春をまっているんだよ。 ・葉っぱが全部落ちてしまった木があるよ。 ・小さなふくらみがある木の枝があるよ。 <p>③ 機会を見つけ、自分たちも身近な自然の中で、「冬さがし」「春さがし」をする。</p>	<p>□ 今までに親しんできた自分たちの周りの小動物、木々などの様子に興味や関心をもち、それらをいとおしむ心を育む。</p> <p>□ 幼児たちが、季節の移り変わりを見つけたり、感じたりできるように見守る。</p>
例	<p>教師：園庭や家の近くにもたくさん「冬（春）」があるかな。 みんなで、見つけましょう。</p>	


分類	2- (2)	資料名	④ 思っていること、教えて…
資料について	 <p data-bbox="842 434 1358 562">このパネルは、幼児が自由に、自分の夢や希望、自分の考えを語ることをねらいとしています。</p>		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の言葉で表現する楽しさを味わうとともに、他の人の思いや考えに気づく。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話を聞いてもらったり、人の話を聞いたりすることの楽しさを味わう。 ○ 自分とは違ういろいろな思いや考えがあることに気づく。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己表現する楽しさが味わえるように、幼児の自由な発想に共感していく。 ・ パネルに表現されている明るい雰囲気や夢、希望などを幼児が感じ取れるようにする。 ・ 幼児一人一人の発達や生活状況とともに、興味をもっているもの、望んでいることなども把握しておく。 ・ クラス全体だけではなく、小グループでの話し合いの場なども大切にしていく。 		
展開例	活動内容	環境の構成・教師の援助	
	<p data-bbox="236 1391 644 1424">① パネルの絵を見て話し合う。</p> <div data-bbox="256 1435 959 1509" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p data-bbox="272 1458 935 1491">教師：パネルの子どもたちは、何をしているのかな。</p> </div> <div data-bbox="236 1525 788 1966" style="border: 1px dashed black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p data-bbox="336 1559 651 1592">【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三人で話をしているんだよ。 ・ うれしそうだね。何か思い出しているみたい。 ・ 自分が楽しかったことを、友だちにつたえているのかな。 ・ 三人で楽しく遊んだ話をしているのかな。 </div>	<p data-bbox="826 1294 1422 1373">□ 休み明けの朝の「おはなしタイム」などで活用する。</p>	

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p>② 最近楽しかったことや、うれしかったことなどを話し合う。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>教師：みんなも何か楽しいことはあったかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇にあそびに行ったよ。 ・〇〇を見たよ。びっくりしたよ。 ・うれしかったよ。〇〇ができたよ。 ・〇〇さんに会ったよ。 ・〇〇があつたらよかったな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 家庭での出来事を振り返りながら、楽しかったことやうれしく感じたことなどの話し合いにつなげる。 <input type="checkbox"/> 園外保育の前日や翌日などにも活用し、幼児のイメージがふくらむような話し合いにする。 <input type="checkbox"/> 休日の地域のイベントや活動は、幼児の共通の話題になることもあるので、事前に情報を得ておくとよい。 <input type="checkbox"/> 事実を伝えることにこだわらず、幼児の願いも大切に引き上げる。 <input type="checkbox"/> 幼児はいろいろな感情をもって話し合いの場にいるということを配慮し、友だちの話を聞きながら、明るい気持ちになっていけるように支援をする。
例	<p>③ 友だちの話を聞いて、感想を伝え合う。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>教師：友だちの話を聞いて、伝えたいことはあるかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さん、なわとびの練習がんばったんだね。 ・わたしも、〇〇さんと会ってうれしかったよ。 ・とっても楽しかったんだね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自分の思いを友だちに受け止めてもらえたことを感じることを通して、話す楽しさを感じさせていく。

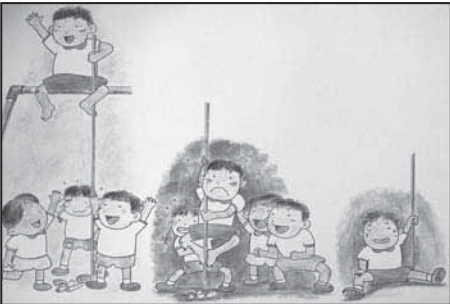
分類	2- (2)	資料名 ⑤ おいしいね。
資料について	 <p>このパネルは、多文化理解の導入教材の一つとして作成したものです。 各園の幼児や地域の実態に応じた設定での活用を図るようにし、展開例にある「パーティー」の設定にとらわれる必要はありません。</p>	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と他者との違いを知り、お互いに認め合う。 ・ 自分から友だちにかかわり、友だちと一緒にいる楽しさを知る。 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな国の人々の存在を知り、親しみをもつ。 ○ 自分からかかわろうという気持ちを育てていく。 	
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界には自分が住んでいる国だけでなく、いろいろな国の人々がいるということに気づくように補助的な教材が必要である。(世界地図、世界各国の国旗、地球儀など) ・ 世界の中の日本の国という意識をもたせたり、自分が住んでいる日本の国に興味や関心を高めたりするようにしていく。 ・ クラスの中に外国人幼児がいる場合、その幼児を理解していくとともに、その国の文化や価値観などを知り、相手のことを受け入れることができるように、クラスの幼児の発達段階に応じて指導していく。 ・ クラスの中の外国人幼児の実態や、保護者の意識などについて十分把握しておく。 	
展開例	活動内容	環境の構成・教師の援助
	<p>① 何をしている場面か考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：お友だち、楽しそうにしているね。何をしているのかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで、お料理を食べている。 ・ お寿司がある。エビフライもある。 ・ お皿にいっぱいご馳走が並んでいる。 ・ みんなでパーティーをしているのだと思う。 ・ 友だちのジュースが机の上にこぼれたのをふいているよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> □ 幼児たちがパネルを見て、どのようなことをイメージしているのかを把握して話を進めていく。 □ 幼児の発言を受けて進めながら、パネルの外国人幼児に気づくようにしていく。

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p>教師：外国からきたお友だちとパーティーをしているようですね。 どんな話をしているのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいね。 ・このお料理美味しいね。 ・日本では、おはしを使うんだよって言うっている。 ・外国のお友だちも、フォークを使うんだよって言うっているかもしれない。 ・外国のお友だちの国では、どんなものを食べているか聞いている。 <p>② マリアちゃんたちと友だちになるために、 どのようなことができるかを話し合う。</p>	
	<p>教師：マリアちゃんたち、日本のことをあまりよく知らないの。 どんなことをしてあげたらいいかな。マリアちゃんたち喜ぶかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このお料理美味しいよって教える。 ・おはしの使い方を教えるよ。 ・日本語が分からなかったら、まねをしたりして教えるよ。 ・食べた後で一緒に遊ぼうって言う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 外国の人と接した自分たちの体験を話し合う。 ・ 外見の違い（肌の色、髪の色、背の高さ） ・ 言葉の違い ・ 慣習の違い（あいさつ、食事など） □ 違いがあっても、みんな人間、みんな友だち。一人ぼっちは悲しいという気持ちに気づき、「一緒に遊ぼう。」と自分から働きかけていけるような優しい気持ちを育てていくようにする。
例		

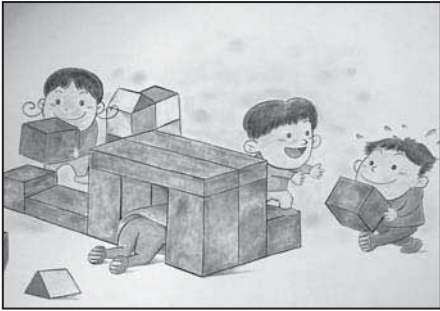
	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展	<p>【予想される保護者の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親が、いっぱい話を聞いてくれるから。 ・次々に話したいことがあるから。 ・おんぶや抱っこしてくれるから。 ・母親もうれしそうにして聞いてくれるから。 <p>② 自分の子どもへのかかわり方を発言する。</p>	<p>□ 子どもの表情から子どもの気持ちを読み取り、自分の話を聞いてくれたり、受け止めてもらえたりすることがうれしい子どもの気持ちに気づくようにしていく。</p>
	<p>教師：お母さんも、うれしそうに、子どもの話を聞いていますね。 みなさんは、どうですか。子どもさんの話をどのように聞いていますか。</p>	
開	<p>【予想される保護者の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あ、そう。」と短い返事だけのことが多い。 ・お風呂に入ったときに、その日のできごとを聞く。ゆっくり子どもと過ごす時間をつくっている。 ・「今忙しいから、後でね。」と言って、すぐに聞かないことがある。 	<p>□ 子どもへのかかわり方を話す中で、自分のかかわり方を、子どもはどう思っていたのかということに気づけるようにする。</p>
	<p>教師：お母さんが、どんな様子で聞いてくれることがうれしいでしょうね。子どもたちが、「お母さん、聞いて、聞いて。」と言ってくるように、お母さんやお父さんはどんなふうにしたらよいでしょうか。</p>	
例	<p>【予想される保護者の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話を聞かせて」という態度や、うなずいて聞くこと。 ・後回しにしないで、すぐに聞くこと。 ・子どもの話をゆっくり聞く時間をもつようにする。 ・話を聞いてもらった経験が次にまた話そうという気持ちにつながる。 	<p>□ 子育てに悩んでいる保護者の気持ちを受け止め、子どもへの今後のかかわり方のヒントになるようにしていく。</p> <p>□ 話し合うことで、自分の子育てを振り返ったり、子どもの気持ちを理解したりすることで、子育てが楽しくなるようにしていく。</p>

分類	3- (1)	資料名	⑦うんとこしょ！（みんなでいも掘り）
資料について	 <p>このパネルは、幼児たちが楽しくいも掘りをしている光景を描いています。</p> <p>画面左端の女の子が、いもを高く持ち上げているのは、画面の外に、高齢者をはじめ様々な人々が、いも掘りを手伝ったり、見守ったりしていることを表現しています。</p>		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなと一緒に作業することの楽しさに気づき、最後までやり遂げようとする意欲をもつ。 ・ 収穫できた喜びをみんなで味わう。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相互に協力し、収穫の喜びや達成感を味わいたいという意欲や期待感をもつ。 ○ 自分の役割を自分で見つけ、積極的に取り組もうとする。 ○ 実際に体験したいも掘りを思い出しながら、感じたことを表現する。 ○ 異年齢との触れ合いで、助けられたり助けたりする中で、支え合うことの喜びや大切さを感じる。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前指導…幼児にいも掘りを楽しみにする気持ちがふくらむようにする。 ・ 事後指導…幼児一人一人が味わった楽しさや充実感を思い出すことができるようにする。 ・ いも掘りの経験の有無や年齢、クラスの雰囲気などによって、パネル提示の時期を行事の直前、前日、あるいは後日にするなど、効果的に活用する。 		
展開例	活動内容	環境の構成・教師の援助	
	<p>① いも掘りの経験談を、話しやパネルから見つけたことを自由に話す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：パネルの子どもたちは、何をしているのかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ からだより大きいおいもだね。 ・ 深く掘っている。 ・ 一生懸命抜こうとしている。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> □ 幼児の経験したことや知っていることなどを把握しておく。 □ 話が出つくしたところに、幼児の興味を喚起するように、パネルを提示する。 □ 幼児の気づきに驚いたり、感心したり、共感的な態度で受け止めていく。 □ 事前指導ならば、早く行きたいという気持ちの高まりを受け止め、いも掘りを楽しみに待てるようにする。 	

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p>② パネルの中で、なりたい自分を見つけて発表する。</p>	<p>□ 幼児にとって、いも掘りはなかなか困難ではあるが、みんなで最後まで頑張って掘ろうという意欲がもてるような展開をする。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>教師：どの子になりたいかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいもを掘って、運ぶ人。 ・2人でおいもを掘っている人。 ・おいものつるを引っ張る人。 </div> <p>③ 楽しいいも掘りになるような工夫を考える。</p>	<p>□ いろいろな幼児の疑問に、できるだけ幼児同士の話し合いで分かり合えるようにする。</p>
例	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>教師：楽しいいも掘りにするには、どうしたらいいのかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで力を合わせる。 ・スコップが友だちや自分の手に当たって、けがをしないように気をつける。 </div>	<p>□ スコップは、さつまいもだけでなく、周りの人や自分も傷つけることがあるので、注意するように言葉をかける。</p> <p>□ 友だちの頑張りを認めたり、困っている時に手助けしたりする幼児を認める。</p>


分類	3- (1)		資料名	⑧ のぼれたよ
資料について	 <p>このパネルは、登り棒ができず泣いている男の子が、友達の支援によって登ることができるようになった様子を3場面に分けて描いています。</p>			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの支えの中で、最後までやり遂げようとする意欲をもつ。 			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなに支えられて達成できた喜びに共感する。 ○ できないことでもやってみようとする意欲をもつ。 ○ 日々の体験を通して、できない幼児の気持ちを思いやる。 			
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の運動能力には個人差がある。達成できた喜びに加え、最後まであきらめないことの大切さが分かるようにする。 ・ 登り棒が苦手な幼児や、障害のある幼児や病気などで登り棒ができない幼児に対しては、配慮が必要である。 			
展開例	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助		
	<p>① 各場面について、どういう状況にあるのか、どんな気持ちか話し合う。</p> <p>② パネル右端の泣いている子どものことを想像して、感じたことを話し合う。</p>	<p><input type="checkbox"/> 幼児の思いを自由に発言できる雰囲気をつくる。</p> <p><input type="checkbox"/> パネルの表示方法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 全面を一度に見せる方法。 * 全面を隠しておき、右から少しずつ見せていく方法。 		
	<p>教師：なぜ、泣いているのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けがをしているから。 ・ 棒から落ちたから。 ・ 登り棒ができないから。 			


	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展	③ 他の場面を考え、話し合う。	<input type="checkbox"/> 幼児が、他の各場面の状況と自分を重ね合わせて考えられるようにする。
	④ 頑張っている幼児と、まわりで応援している幼児の様子について考え話し合う。	<input type="checkbox"/> 幼児が自分の経験を思い出し、それぞれの立場で考えられるように言葉をかける。 <input type="checkbox"/> 友だちの話を聞きながら、自分の思いが表現できるようにする。
開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 教師：登ろうとしている子はどんな気持ちかな。 周りの子は、どうしているのかな。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 【予想される幼児の発言】 <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命登っている。 ・登りたい、登りたいと思っている。 ・周りの子は一生懸命応援している。 </div>	<input type="checkbox"/> 幼児が「痛い。」「悲しい。」「頑張ろう。」「頑張れ。」「うれしい。」「よかったね」などという感情を、素直に出せるようにするとともに、幼児の思いを大事に受け止めるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 教師：登ることができた時は、どんな気持ちかな。 </div>	
例	⑤ 同じような経験はなかったかを振り返り、話し合う。	<input type="checkbox"/> 幼児の日常生活の中で、うれしかったことや楽しかったこと、困ったことなどを話し合い、次の意欲へつなげる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 教師：あきらめなかったから、できるようになったんだね。 </div>	
	⑥ 繰り返し頑張ることで、達成できたことに気づき、最後まであきらめなかった幼児の気持ちを想像する。	<input type="checkbox"/> 幼児一人一人が、自分の経験と重ねて考え、最後まであきらめないことの大切さや、友達に支えられている自分に気づくようにする。 <input type="checkbox"/> いろんな運動遊具や活動に挑戦した経験にもつなげていく。

分類	3- (1)		資料名	㊟ いっしょに つくろう
資料について			<p>このパネルは、幼児の積み木遊びを描いています。協同する遊びの中で、互いのコミュニケーションを深めたり、役割分担をしたりしながら様々なことに気づき、豊かな人間関係を築くスキル（技能）を形成する契機になるよう作成したものです。</p>	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割を分担し、友だちと楽しく遊びを進める。 			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちで工夫して、楽しく遊ぼうとする意欲をもつ。 ○ お互いに相談しながら進めていくことの大切さに気づく。 ○ 遊びの広がりを考え、工夫する意欲をもつ。 ○ 役割分担をすることを通して、一人一人がかけがいのない存在であることに気づく。 			
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児相互の力関係で遊びのルールが決められている場合は、幼児同士が対等の関係を築くことができるようにする。 ・ 遊びを妨げるような行動をとる幼児に対しては、友だちの願いや思いについて考えられるように援助をする。 			
	活 動 内 容		環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助	
展 開	<p>① 何をしている場面か考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積み木で何かをつくっている。 ・ みんなで楽しそうに遊んでいる。 </div> <p>② 何をつくらうとしているのかを想像し、話し合う。</p>		<p><input type="checkbox"/> パネルの表示方法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 全面を一度に見せる方法。 * 全面を隠しておき、右から少しずつ見せていく方法。 	
例	<p>教師：何をつくっているのかな。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <p>家 基地 飛行機 船 橋 車 城 道路 テレビ</p> </div>		<p><input type="checkbox"/> 幼児の日常の遊びから、イメージが広がるように話しかけていく。</p> <p><input type="checkbox"/> 自由な発言を通して、様々なとらえ方のあることがわかるようにする。</p>	

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p>③ パネルの一人一人の幼児は、どんな役割を担っているのか、またどんな気持ちで遊んでいるのかを想像する。</p>	<p>□ 幼児が、日常の積み木などの遊びの場面を思い出し、このパネルから、その心情を幼児自身が想像できるようにする。</p> <p>□ 「自分の思っていることと違ったときはどうするのか。」「したくない役割になったら、どうするのか。」など、幼児が日々遊びの中でしていることや感じていることを、自由に話し合えるようにする。</p>
	<p>教師：この子たちを見て、どう思うかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積み木を運んでいる子はとっても頑張っている。 ・積み木を運んでいる子は大変そう。 ・下にもぐっている子は、下のところを組み立てている。 	
例	<p>教師：みんなは、積み木でどんな遊びをするかな。遊びの中で困ったことはありますか。困ったときはどうしたら楽しく遊べるかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと相談しながら遊ぶ。 ・役を替わりながらする。 ・いつもけんかになって、遊びが終わりになるので、じゃんけんで決める。 ★ 誰かのいう通りにする。 ★ 仕方がないので、がまんしながら遊ぶ。 	<p>□ 問題があるような発言（★）の場合は、それを契機にしてねらいに迫る。</p> <p>□ 遊びの中で、それぞれの役割の大切さに気づくことができるようにする。</p>

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p>【予想される幼児の発言】</p> <p>*ルールや仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく遊んでいるよ。 ・けんかしている子がいる。 ・順番を替わらない子がいる。 ・ひとりぼっちの子がいる。 	<p>□ ルールを守らない子、自分の感情をおさえられない子がいることに気づかせる。</p> <p>□ 安全な環境づくりが、楽しく過ごすことにつながることに気づかせる。</p> <p>□ 使ったものを片づけることが、みんなが気持ちよく過ごすことにつながることに気づかせる。</p>
	<p>【予想される幼児の発言】</p> <p>*安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがをしている子がいる。 ・友だちがたくさんいる方へボールを投げようとしている子がいる。 ・三輪車が転がっている。 <p>【予想される幼児の発言】</p> <p>*整理整頓面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホースの水が出しっぱなしだ。 ・テーブルの上が片づいていないよ。 ・靴箱の前の大きな積み木がバラバラに置かれている。 <p>② 自分たちならどうするかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：みんなが楽しく遊ぶためにはどうしたらいいかな。</p> </div>	
例	<p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けんかをしないで、嫌だと思ったことは相手に言えばいい。 ・危ないことはしたらいけないと、みんな注意したらいい。 ・使ったものは、自分で片づける。 ・ひとりで遊んでいる子には、遊ぼうって声をかけるよ。 ・自分の周りも安全か確かめないといけないね。 	<p>□ パネルの中の楽しく遊んでいる子に注目させて、どのようなかかわり方がよいのか、何に気が付いたらよいのか、自分たちの体験をもとに話し合いをする。</p> <p>□ 実際に自分が友だちにしたこと、されたこと、その時の気持ちを出し合うことによってみんなが楽しく過ごすためにできることは何かを考えさせる。</p> <p>□ 自分たちで話し合っ解決することの良さに気づかせ、自分たちで決めたことはみんなを守ろうという気持ちを育てる。</p>

分類	3-(2)	資料名	⑪ ふれあいひろば
資料について	 <p>このパネルは、地域の公園での様々な幼児同士、幼児と地域の人々との触れ合いの場面を描いています。</p> <p>幼児が、日頃から様々な人々と出会ったときに、進んで交流しようとする意欲をはぐくむために作成したものです。</p>		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の周りの人々とのつながりに気づき、交流しようとする意欲をもつ。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域には様々な人々が暮らしていることに気づく。 ○ 自分の身近な家族や、幼稚園以外の地域の人々と交流しようとする気持ちをもつ。 ○ 気持ちのよいあいさつをする習慣を身に付けるようにする。 ○ 人の役に立てることを喜ぶ気持ちをもつ。 		
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児や地域の実態に応じて、高齢者、障害のある人、地域の人々など、自分の生活に関係の深い様々な人々に親しみをもってかかわる気持ちが育つようにする。 		
展 開 例	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助	
	① 地域には、様々な人々が交流する場があることが分かる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教師：たくさんの方が集まっていますね。ここはどこでしょうか。</p> </div>	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園だと思う。 ・ ぼくの家近くにもあるよ。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教師：みんなの家の近くにも、公園のように人が集まる場所がありますか。 みんなは、公園でどんなことをしているのかな。</p> </div>	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちとサッカーをしているよ。 ・ すべり台で遊んでいる。 ・ ブランコにのるよ。 ・ お父さんと犬の散歩に行く。 ・ なわとびの練習をしにいくよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> □ まず、自分の生活を振り返ることによって、パネルに描かれている場面を、身近にとらえさせる。 □ 公園は、どんな人が来てもよい場所であり、それぞれが、いろいろな目的で集まって来ていることに気づかせる。 		

分類	3—(2)	資料名 ⑫ わたし あなた みんな
資料について		<p>このパネルは、幼児の喜怒哀楽などの表情を描いています。</p> <p>幼児期の発達の特徴の一つである、他者の存在を意識することから発展させ、自分が好き、友だちも好きという、自他を尊重する感情をはぐくむために作成したものです。</p>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分と違う他者（友だち）の存在に気づき、自他を尊重する感情を高める。 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分と違う人がいることや、自分と違う思いがあることを知り、相手を思いやる心をもつ。 ○ 自分のよいところを見つけたり、それを表現したりする。 ○ 自分の周りの人々に、興味や関心をもつ。 	
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の心の状態を十分把握しておく。 ・ 幼児の身体的特徴に対して、他の幼児がからかったりすることのないように留意する。 	
展 開 例	活動内容	環境の構成・教師の援助
	<p>① パネルに描かれている表情は、どんなときにするのかを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：いろいろな表情があるね。どんな時の表情かな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 驚いているとき ・ 笑っているとき ・ 悲しいとき ・ 怒っているとき ・ 楽しいとき ・ 泣いているとき </div> <p>② 自分の生活を振り返り、自分の気持ちや友だちの気持ちについて話し合う。</p>	<p>□ それぞれの表情に対する幼児の思いを受け止めていく。</p> <p>□ 一日の中でもいろいろ表情が変化することに気づくようにする。</p> <p>* すべての表情について、取り上げるのではなく、教師が幼児の実態にあった表情を取り上げて話し合いをさせる。</p>

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p>教師：みんなは、どんなときに〈例：怒った〉表情をするのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】 〈例：怒っているとき〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを友だちに分かってもらえないとき。 ・せっかく積み木で家を作ったのに、壊されたときに怒ったことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 感情には「よい、悪い」という区別はなく、すべて自然な感情であり、感情を表出することにも「よい、悪い」はない。幼児から出される思いを丁寧に受け止めていく。 □ 話し合いを通して、同じ表情でもそれぞれの思いが異なることに気づかせる。 □ 同じ出来事でも、幼児により受け止め方は異なることに気づき、違いを認め合えるように話し合いをすすめる。
	<p>教師：〈例：怒った〉表情をしている友だちを見て、みんなはどんな気持ちになるのかな。また、自分が〈例：怒っている〉とき、友だちにどうして欲しいと思っているかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】 〈例：怒っているとき〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ怒っているのか聞いてみよう。 ・いやなことがあったのかな。 ・近づかないでおこう。 ・誰か理由を聞いてくれないかな。 ・嫌なことを、何とかしてほしい。 ・かまわないでおいてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 友だちのかかわり方についていろいろな考えを出し合うことで、お互いを知るきっかけとする。 □ 周りにいる友だちに関心をもち、積極的にかかわっていくことの大切さに気づかせる。
例		



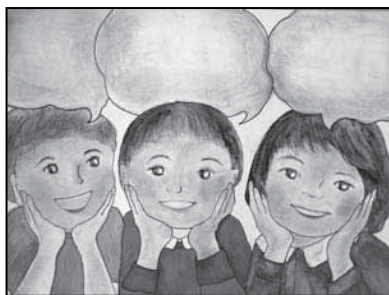
① みんな生きている



② イチゴ



③ もうすぐ春が...



④ 思っていること、教えて...



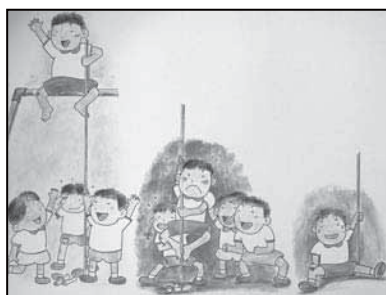
⑤ おいしいね。



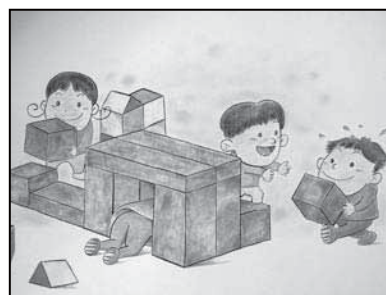
⑥ ねえ、ねえ、聞いて



⑦ うんここしょ!
(みんなでいも掘り)



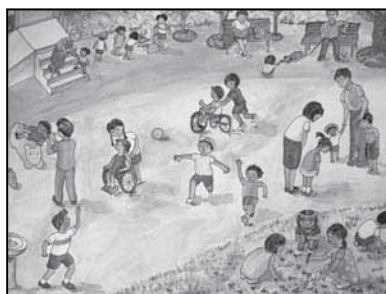
⑧ のぼれたよ



⑨ いっしょに つくろう



⑩ ようちえん



⑪ ふれあいひろば



⑫ わたし あなた みんな

委員名簿

(五十音順)

1 人権教育資料検討委員会

	岡崎まゆみ	兵庫県立幼児教育センター	所長
	桂 正孝	宝塚大学	教授
	新保真紀子	神戸親和女子大学	教授
委員長	鈴木 正幸	神戸大学	名誉教授
	中部 剛	神戸新聞社編集局	社会部デスク
	野口 啓子	神戸市立神戸幼稚園	園長
	藤原 信子	兵庫県人権擁護委員連合会	副会長
	溝口 繁美	県教育委員会	教育次長
副委員長	宮井 和子	西宮市立甲子園浜小学校	校長
	向井 利隆	神戸市教育委員会人権教育課	首席指導主事

2 人権教育資料作成委員会（幼稚園部会）

	奥田 孝子	明石市立貴崎幼稚園	園長
部会長	塚本伊津美	神戸市立おしんべ幼稚園	園長
	中川 尚子	赤穂市立御崎幼稚園	園長
	西窪 千昌	芦屋市立小槌幼稚園	園長
	馬場 和美	神戸市教育委員会人権教育課	指導主事
	平井 和恵	県教育委員会事務局義務教育課	主任指導主事
挿絵委員	秋山 道広	芦屋市立宮川小学校	教諭
	郷良佳代子	神戸市立妙法寺小学校	教諭
	内藤久身子	宝塚市立美座小学校	教諭
	橋本 忠和	姫路市立手柄小学校	主幹教諭
	古橋 衛	豊岡市立三江小学校	教諭

※ 委員の所属・職は平成24(2012)年3月現在

幼稚園用教育資料

『ほほえみ』活用の手引き

平成 24(2012)年 3 月発行

発行 兵庫県教育委員会
神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号